第４学年国語科学習指導案

４年２組　指導者　五十部大暁

単　元　段落どうしのつながりを考えよう「アップとルーズで伝える」

１　本単元でめざす子どもの姿について

対象と向き合う子どもの姿【対】	自己と向き合う子どもの姿【自】	他者と向き合う子どもの姿【他】
○段落相互の関係について考えながら、説明文を繰り返し読んでいる。	○段落相互の関係について自分の考えの変容を自覚している。	○段落相互の関係について話し合い、仲間の考えのよさに気付いている。

２　めざす子どもの姿を実現するために

本学級の子どもたちは、前教材「大きな力を出す」「動いて、考えて、また動く」において双括型の文章構成や筆者の考えと経験とのつながりについて考える学習に取り組んだ。このような子どもたちが、筆者の対比の仕方や事例の工夫について考えていく。このことは、段落相互の関係について考えながら説明文を読むことへの関心を高めることにつながるであろう。

本単元は、筆者の対比の仕方や事例の工夫について話し合い、段落相互の関係について自分の考えをもつ学習である。本教材では、アップとルーズを対比したり、テレビの事例に新聞の事例を加えたりしながら、目的に応じてアップとルーズを使い分けていることが説明されている。子どもたちが説明文を読む際は、構造や内容の読みにとどまりがちである。そこで、段落相互の関係が生み出す効果から筆者の意図に迫ることを大切にしたい。そうすることで、構造や内容に加えて筆者の意図まで含めて説明文を深く読むことができると考えるからである。

そこで、以下のような支援を具体化し、本単元でめざす子どもの姿の実現を図る。

○　文章の内容を表に整理したり一部を抜いた文章と本来の文章とを比較したりして、段落相互の関係がどのような効果を生み出しているかを考えるよう促す。そうすることで、段落相互の関係や筆者の意図について考えることができるようにする。【対】

○　段落相互の関係が生み出す効果について発言した際、「どの部分からそう思ったのか」と問い返す。そうすることで、仲間の考えを根拠と共に受け止めることができるようにする。【他】

○　毎時間の終末には、初めの自分の考えと比べながら振り返るよう促す。そうすることで、段落相互の関係について考えの変容を自覚できるようにする。【自】

３　本単元の目標

○　筆者の対比の仕方や事例の工夫について話し合い、段落相互の関係について自分の考えをもつことができるようにする。

○　段落相互の関係について考えながら説明文を読むことへの関心を高めることができるようにする。

４　本単元における評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○対比の仕方や事例の工夫を理解することができる。	○説明文を読み、段落相互の関係について考えている。	○段落相互の関係について考えながら説明文を読もうとしている。

５　指導計画（全６時間）

第１次　「アップとルーズで伝える」を読み、学習の見通しをもつ（１時間）

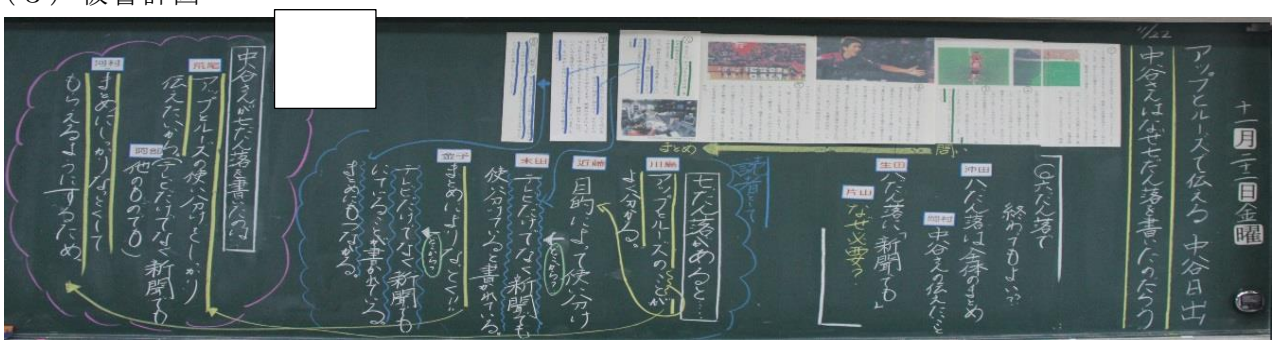
第２次　段落相互の関係について話し合う（３時間）【本時３／３】

第３次　段落相互の関係について考えながら「手で食べる、はしで食べる」と「動物たちのしぐさ」を読む（２時間）

６　本時案　　【令和元年１１月２２日　９：２５～１０：１０　４年２組教室】

（１）ねらい　筆者が７段落を書いた意図について話し合うことをとおして、７段落と他の段落との関係について自分の考えをもつことができるようにする。

（２）学習過程※下線は３つの向き合う姿が表れている子どもの意識

学習活動・学習内容	子どもの意識	○教師の支援
１　筆者が７段落を書いた意図について話し合う。（35 分） ・７段落と他の段落との関係が生み出す効果 ・主な事例に他の事例を加えることで、伝えたいことを強化すること ・筆者の意図	・３段落の問いと６段落のまとめがあるから分かりやすいと言っている人がいたね。 問いとまとめがあるのなら、6 段落で終わってもよいのではないのかな。 Ａ８段落は全体のまとめだから必要だよ。でも、７段落は必要かどうかよく分からないな。 ・うーん、でも、中谷さんは何か考えがあって７段落を書いているはずだよ。 **中谷さんはなぜ７段落を書いたのだろう。** ・<u>７段落がない説明文と７段落がある説明文を比べると、どのような違いがあるのかな。【対】</u> Ｂ７段落があるとアップとルーズを使い分けていることが、より伝わってくる気がしたよ。 Ａたしかに僕もそのような気がするよ。でも、それはなぜなのだろう。 Ｂそれは、アップとルーズの使い分けが６段落の「目的におうじてアップとルーズを切りかえながら」と７段落の「目的にいちばん合うものを選んで」で２回あるからだと思うよ。 Ａ<u>そうか、テレビだけでなくて新聞でも目的に応じてアップとルーズを使い分けていることを書いているから、より伝わってくるのだね。【他】</u> Ｃ中谷さんは、目的に応じてアップとルーズを使い分けていることを読者にしっかり伝えるために、７段落を書いたのだね。	○７段落を抜いた文章と本来の文章とを比較し、７段落があることでどのような効果を生み出しているかを考えるよう促す。そうすることで、７段落と他の段落との関係や筆者の意図について考えることができるようにする。【対】 ○段落相互の関係が生み出す効果について発言した際、「どの部分からそう思ったのか」と問い返すことで、仲間の考えを根拠と共に受け止めることができるようにする。【他】
２　本時の振り返りを書く。（10 分） ・７段落と他の段落との関係 ・自分の考えの変容	Ａ<u>初めはよく分からなかったけれど、中谷さんは目的に応じてアップとルーズを使い分けていることを読者に伝えるために、７段落を書いたのだと分かったよ。【自】</u> ・中谷さんはいろいろな工夫をしてこの説明文を書いていたのだね。他の説明文の筆者も、中谷さんのような工夫をしているのかな。	○初めの自分の考えと比べながら振り返るよう促すことで、７段落と他の段落との関係について考えの変容を自覚できるようにする。【自】

（３）板書計画